

地域における運動施設開放の整備・運営
に関する基礎的研究

—住民の運動者行動を手がかりとして—

永田 靖章

(体育教室)

市野 聖治

(体育教室)

川合 勇治

(名古屋大学教育学部附属中高校)

岡部 育世

(愛知県立岡崎養護学校)

森 奈緒美

(愛知女子短期大学)

A Basical Study on the Management of
Area Service in the Community

—from a view point of the human behavior of physical activities to sports services—

Yasuaki NAGATA, Shoji ICHINO

(Department of Physical Education)

Yuji KAWAI

(Attached High School of Nagoya University)

Ikuyo OKABE

(Prefectural Okazaki Protective School)

Naomi MORI

(Aichi Women's Junior College)

I. 緒 言

地域の運動施設は、住民の運動学習の場であり、また、運動欲求を充足させ、運動を通して得られる身体的・精神的価値の実現に寄与するものである。したがって、その機能を十分発揮するためには、管理・運営のあり方が重要な意味をもっている。

運動施設の管理・運営は、人々の運動者行動²⁾を成立させるための直接的条件をととのえる営みである。この営み、すなわち、運動施設をととのえ、その施設がもつ体育的機能ができるだけ活用して、運動者が望ましい体育・スポーツ活動に向かうようにすることは、体育・スポーツ経営の中で、Area Service（運動施設開放の整備・運営）という事業として位置づけられている。

地域の Area Service では、運動施設の整備・運営のための体系化が必要とされている。それは、経営の対象となる運動者の質の差が最大であり、当然、事業も各種にわたるものが求められるからである。地域における運動施設の体系的なとらえ方は、文部省が示した社会体育施設の考え方が典型的であり⁴⁾、さらに、具体的な分類が宇土によってなされている⁵⁾。

しかしながら、我が国の現状では、地域における体育・スポーツのための運動施設は十分ではなく、Area Service については、施設の整備や、効果的な運営が求められている。

そこで、本研究は、地域における Area Service に視点をあて、住民の運動者行動を検討することによって、運動施設の整備・運営の手がかりを得ようとするものである。

II. 問題の設定と研究のねらい

市町村が体育やスポーツに関わる事業を運営する経営組織をもち、住民を対象として営む事業、および、その振興のために必要な手続きの総称が、地域の体育・スポーツ経営の概念である⁶⁾。体育やスポーツの行われる場の区分にしたがって、体育・スポーツ経営の領域を捉えた場合、地域の体育・スポーツ経営のほか⁷⁾に、職場の体育・スポーツ経営や学校の体育経営⁸⁾などの領域が考えられる。この領域論⁹⁾では、経営体の性格や経営組織を包含している母体と、経営の対象や体育・スポーツの目標などが、各領域のちがいを特徴づけている。

本研究では、地域の体育・スポーツ経営に目を向け、中でも Area Service の問題を取り上げようとするものである。具体的には地域の運動施設開放を利用している住民（以下 Area 運動者）と、利用していない住民（以下非 Area 運動者）の運動者行動を明らかにすることによって、地域の体育・スポーツ経営における Area Service の望ましい方策を求めようとするものである。

III. 研究の方法

1. 対象

愛知県刈谷市在住の18才以上の住民1544名である。なお、研究対象について、性別居住地区との関係から示したものが、表1である。

表 1. 研究対象

地区 n, % 性別	北 部		中 部		南 部		全 体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
男子	244	31.2	285	36.5	252	32.3	781	50.6
女子	198	26.0	374	49.0	191	25.0	763	49.4
計	442	28.6	659	42.7	443	28.7	1544	

2. 調査期日

昭和 58 年 7 月

3. 手続き

- (1) 調査は、刈谷市教育委員会の協力を得て、刈谷市在住の 18 才以上の住民 2000 名に
対して行った。その中から、1544 名を回収し、有効標本として用いた。
- (2) 調査の内容は大別して、運動者の主体的条件、運動者行動、インフォメーション・
サービス¹¹⁾に対する認識や要望などとした。
- (3) 住民の居住地区の区分は、刈谷市の行政区分や地理的自然的条件とを加味して、
北部、中部、南部の 3 地区とした。その特徴を示したものが、表 2 である。

表 2. 刈谷市の地区別特徴

	北 部	中 部	南 部
人 口 (人)	28,289	46,626	28,926
面 積 (ha)	1,974	1,520	1,580
土 地 利 用	住宅地+農業地	商工業地+住宅地	農業地+住宅地
体育・スポーツ施設 ・市営の施設	2 ・グラウンド ・近隣運動場	8 ・地域運動場(3) ・近隣運動場 ・体育館 ・グラウンド ・プール ・テニスコート	3 ・地域運動場 ・近隣運動場 ・グラウンド
・学校開放施設	6	7	4
・職場の施設	1	7	0
関係的运动施設			
・公 園	3 (22.04 ha)	32 (21.66 ha)	14 (3.79 ha)
・公民館	9	10	4
概 要	住宅環境地区	中心市街地 職場の体育・ス ポーツ施設も多い	優良農地の保全

IV. 研究の結果とその考察

1. 地域の運動施設の整備状況

研究対象の地域の Area Service の対象となっている運動施設の配置を示したものが、
図 1 である。

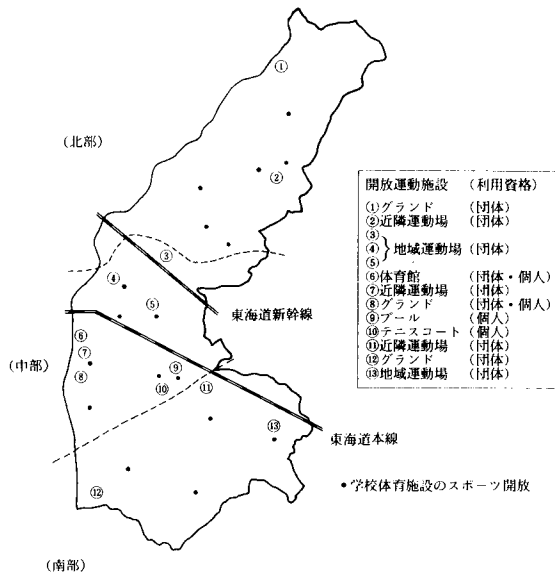


図1. 地域の運動施設開放

2. 住民の運動者構成

3つの体育・スポーツ事業 (Club Service, Program Service, Area Service) と住民とのかわりについての運動者構成をみたものが、表3である。

表3. 運動者構成

性別 運動者	地区 n %	男 子				女 子			
		北 部	中 部	南 部	全 体	北 部	中 部	南 部	全 体
		n	n	n	n	n	n	n	n
CPA	n 19 % 7.8	n 38 % 13.3	n 21 % 8.3	n 78 % 10.0	n 14 % 7.1	n 16 % 4.3	n 14 % 7.3	n 44 % 5.8	
CA	n 6 % 2.5	n 13 % 4.6	n 4 % 1.6	n 23 % 2.9	n 4 % 2.0	n 8 % 2.1	n 7 % 3.7	n 19 % 2.5	
PA	n 11 % 4.5	n 5 % 1.8	n 8 % 3.2	n 24 % 3.1	n 1 % 0.5	n 8 % 2.1	n 2 % 1.0	n 11 % 1.4	
A	n 21 % 8.6	n 16 % 5.6	n 29 % 11.5	n 66 % 8.5	n 5 % 2.5	n 21 % 5.6	n 5 % 2.6	n 31 % 4.1	
C	n 16 % 6.6	n 19 % 6.7	n 12 % 4.8	n 47 % 6.0	n 10 % 5.1	n 20 % 5.3	n 12 % 6.3	n 42 % 5.5	
CP	n 14 % 5.7	n 20 % 7.0	n 17 % 6.7	n 51 % 6.5	n 7 % 3.5	n 40 % 10.7	n 11 % 5.8	n 58 % 7.6	
P	n 15 % 6.1	n 19 % 6.7	n 18 % 7.1	n 52 % 6.7	n 13 % 6.6	n 34 % 9.1	n 10 % 5.2	n 57 % 7.5	
S	n 142 % 58.2	n 155 % 54.4	n 143 % 56.7	n 440 % 56.3	n 144 % 72.7	n 227 % 60.7	n 130 % 68.1	n 501 % 65.7	
N	n 244	n 285	n 252	n 781	n 198	n 374	n 191	n 763	

S¹⁴⁾運動者 (運動に対して停滞しているという意味で Stay または Still 運動者) は、どの地区も多いが、特に、男子、女子ともに北部が多く、中部が少ない。また、男子の運動クラブへの参加者 (CPA-CA-CP-C) と、女子の運動プログラムへの参加者 (CPA-CP-PA-P) が中部に多い。

このことから、住民の運動生活の不活発な地区は北部であり、活発な地区は中部であるといえる。特に、女子にその傾向が強いといえる。

運動施設開放をめぐる運動者行動から、Area 運動者 (CAP-CA-PA-A) と、非 Area 運動者 (C-P-CP-S) とに分類したものが、表4である。

男子、女子ともに、Area 運動者は、中部、南部に多く、北部に少ない。これは、図1との関係から、地区による運動施設の

表 4. Area Service をめぐる運動者構成

性別 地区 運動者	男 子				女 子			
	北部	中部	南部	全体	北部	中部	南部	全体
	n	n	n	n	n	n	n	n
Area 運動者	57	72	62	191	24	53	28	105
	23.4	25.3	24.6	24.5	12.1	14.2	14.7	13.8
非 Area 運動者	187	213	190	590	174	321	163	658
	76.6	74.7	75.4	75.5	87.9	85.8	85.3	86.2
N	244	285	252	781	198	374	191	763

差が影響しているものと考えられる。

また、男子と女子を比較すると、女子よりも男子に Area 運動者は多い。

非 Area 運動者の施設開放に対する利用欲求について示したものが、図 2 である。

全体的に、男女間の差はなく、7 割弱の者が、施設開放を利用して運動したいという欲求をもっている。男子の中では南部に、女子の中では北部に利用欲求をもっている者が多い。

以下の考察では、非 Area 運動者を施設開放に対して利用の欲求がある者、つまり、Area 運動者への転換が最も期待できる潜在的な Area 運動者に限定する。

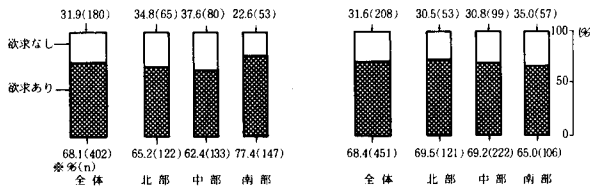


図 2. 非 Area 運動者の A.S. に対する欲求

3. 住民の運動者としての特徴

Area 運動者と非 Area 運動者の特徴を、年齢、就学時の運動経験、運動欲求からみたものが、表 5 である。

表 5. 運動者の特徴

属性 性別 地区 n・%	Area 運動者								非 Area 運動者 (欲求あり)								
	男 子				女 子				男 子				女 子				
	北部	中部	南部	全体	北部	中部	南部	全体	北部	中部	南部	全体	北部	中部	南部	全体	
年 代	10 才代		3	5	8	10		10		2	14	16		27		27	
			4.2	8.1	4.2	18.9		9.5		1.5	9.5	4.0		12.2		6.0	
	%																
20 才代	n	25	17	11	53	3	22	3	28	25	19	21	65	2	79	14	95
	%	43.9	23.6	17.7	27.7	12.5	41.5	10.7	26.7	20.5	14.3	14.3	16.2	1.7	35.6	13.2	21.2
30 才代	n	18	31	31	80	20	19	22	61	57	67	73	197	91	98	85	274
	%	31.6	43.1	50.0	41.9	83.3	35.8	78.6	58.1	46.7	50.4	49.7	49.0	75.2	44.1	80.2	61.0
40 才代	n	13	14	11	38		1	3	4	36	40	34	110	12	15	7	34
	%	22.8	19.4	17.7	19.9		1.9	10.7	3.8	29.5	30.1	23.1	27.4	9.9	6.8	6.6	7.6
50 才代	n		2		2		1		1		3	2	5	4	1		5
	%		2.8		1.0		1.9		1.0		2.3	1.4	1.2	3.3	0.5		1.1
60 才代	n		1		1					1				1			1
	%		1.4		0.5					0.8				0.8			0.2

就学時の運動経験	Club 運動者	n	37	52	50	139	17	34	21	72	68	90	91	249	42	119	49	210
		%	64.9	72.2	80.6	72.8	70.8	64.2	75.0	68.6	55.7	67.7	61.9	61.9	34.7	53.6	46.2	46.8
	Program 運動者	n	5	7		12	1	9	2	12	11	6	12	29	14	19	8	41
		%	8.8	9.7		6.3	4.2	17.0	7.1	11.4	9.0	4.5	8.2	7.2	11.2	8.6	7.5	9.1
Area 運動者	n	11	8	6	25	1	4	1	6	16	13	21	50	14	13	18	45	
	%	19.3	11.1	9.7	13.1	4.2	7.5	3.6	5.7	13.1	9.8	14.3	12.4	11.2	5.9	17.0	10.0	
Stay 運動者	n	3	4	5	12	4	6	4	14	24	23	23	70	47	68	31	146	
	%	5.3	5.6	8.1	6.3	16.7	11.3	14.3	13.3	19.7	17.3	15.6	17.4	38.8	30.6	29.2	32.5	
運 実際に行う	n	50	64	53	167	21	52	26	99	93	110	121	324	87	192	86	365	
	%	87.7	88.9	85.5	87.4	87.5	94.5	92.9	94.3	76.2	82.7	82.3	80.6	71.9	86.5	81.1	81.3	
動 スポーツの観戦	n	2	2	5	9	1	2	1	4	9	4	9	22	15	8	3	26	
	%	3.5	2.8	8.1	4.7	4.2	3.6	3.6	3.8	7.4	3.0	6.1	5.5	12.4	3.6	2.8	5.8	
欲 間接的に見る・聞く	n	4	5	3	12	1	1		2	16	15	14	45	14	13	10	37	
	%	7.0	6.9	4.8	6.3	4.2	1.8		1.9	13.1	11.3	9.5	11.2	11.6	5.9	9.4	8.2	
求 欲求なし	n	1			1					3		2	5	1	4	4	9	
	%	1.8			0.5					2.5		1.4	1.2	0.8	1.8	3.8	2.0	
N			57	72	62	191	24	55	28	105	122	133	147	402	121	222	106	449

運動者の年齢については、Area 運動者、非 Area 運動者ともに、30才代の者が最も多い。次いで、Area 運動者では、男女とも20才代の者が多く、非 Area 運動者では、男子に40才代、女子に20才代の者が多くなっている。また、両運動者群ともに、女子よりも男子の方が年齢層が広く、男子の中では、非 Area 運動者の方が全体的に高齢である。居住地区との関係では、特に差はみられない。

運動者の就学時の運動経験については、男子、女子ともに、Area 運動者は、Club 運動者¹⁵⁾であった者に多く、非 Area 運動者は Stay 運動者であった者に多い。つまり、非 Area 運動者よりも Area 運動者の方が就学時に、積極的に運動を行っていたといえる。また、このことは、就学時における運動への取り組みが、卒業後の運動生活に影響することを示しているものと考えられる。

Area 運動者、非 Area 運動者ともに、Club 運動者であった者は、男子の方が女子よりも多く、Stay 運動者であった者は、女子の方が男子よりも多い。すなわち、女子よりも男子の方が、就学時の運動生活は積極的であったといえる。居住地区と就学時の運動経験との関係では、差はみられない。

運動者の運動欲求については、ほとんどの者が実際に行う欲求をもっており、男女ともに、非 Area 運動者よりも Area 運動者に欲求のある者が多くみられる。居住地区と運動欲求との関係では差はみられない。

4. 住民の運動者行動

1) Area 運動者の運動者行動

(1) 利用施設

Area 運動者の利用している運動施設についてみたものが、表6である。市営の運動施設としては、市外に設置されている施設(海の家、山の家など)も考えられるが、今回は、日常生活圏域の問題にしばらくするために、市内に設置された運動施設のみに焦点をあてた。

Area 運動者が利用している運動施設は、男子と女子の間で差がみられる。つまり、男子が利用している施設は、グラウンド、野球場が多く、女子が利用している施設は、体育館が多い。これは、男子が屋外の運動施設を、女子が屋内の運動施設を多く利用する傾向にあるといえる。

居住地区と運動施設との関係についてみると、男子、女子ともに、特に北部の Area 運動者に、学校開放や民間の施設開放を利用している者が多くみられる。したがって、北部では、市営の運動施設が少ないことから、従属的運動施設の開放¹⁶⁾や民間の運動施設への依存度が、中部や南部に比べて高いと考えられる。

表 6. Area 運動者の利用施設（市内の施設）

施設	性別 地区 n・%	男 子				女 子			
		北部	中部	南部	全体	北部	中部	南部	全体
市 体 育 館	n	12	17	5	34	7	17	11	35
	%	23.5	27.0	8.6	19.8	36.8	34.7	40.7	36.8
営 野 球 場	n	13	21	10	44	1	5		6
	%	25.5	33.3	17.2	25.6	5.3	10.2		6.3
の グラウンド	n	12	20	19	51	3	7		10
	%	23.5	31.7	32.8	29.7	15.8	14.3		10.5
ス ポ ー ル	n	1	8	10	19	3	9	16	18
	%	2.0	12.7	17.2	11.0	15.8	18.4	59.3	18.9
ー 公 園	n	11	10	15	36	2	7	2	11
	%	21.6	15.9	25.9	20.9	10.5	14.3	7.4	11.6
施 設	n	8	10	10	28	5	7	2	14
	%	15.7	15.9	17.2	16.3	26.3	14.3	7.4	14.7
の 学 校 開 放	n	15	15	11	41	6	8	4	18
	%	29.4	23.8	19.0	23.8	31.6	16.3	14.8	18.9
開 放	n	5	6	6	17	1	11	6	18
	%	9.8	9.5	10.3	9.9	5.3	22.4	22.2	18.9
テニスコート	n	3	3	1	7	4	2	5	11
	%	5.9	4.8	1.7	4.1	21.1	4.1	18.5	11.6
そ の 他	n	3	3	1	7	4	2	5	11
	%	5.9	4.8	1.7	4.1	21.1	4.1	18.5	11.6
職場のスポーツ施設開放	n	17	17	22	56	3	14	3	20
	%	33.3	27.0	37.9	32.6	15.8	28.6	11.1	21.1
民間のスポーツ施設開放	n	9	7	5	21	3	6	3	12
	%	17.6	11.1	8.6	12.2	15.8	12.2	11.1	12.6
そ の 他	n	2		1	3		1	1	2
	%	3.9		1.7	1.7		2.0	3.7	2.1

(2) 利用頻度

Area 運動者の施設利用の頻度についてみたものが、表7である。

表 7. Area 運動者の施設利用頻度

頻度	性別 地区 n・%	男 子				女 子			
		北部	中部	南部	全体	北部	中部	南部	全体
ほとんど毎日	n	4	3	1	8		5		5
	%	7.8	4.8	1.7	4.7		10.2		5.3
週に数回	n	3	14	8	25	5	17	12	34
	%	5.9	22.2	13.8	14.5	26.3	34.7	44.4	35.8
月に数回	n	29	35	35	99	9	20	9	38
	%	56.9	55.5	60.3	57.6	47.4	40.8	33.3	40.0
年に数回	n	13	7	14	34	4	4	2	10
	%	25.5	11.1	24.1	19.8	21.1	8.2	7.4	10.5

(3) 活動時間、利用施設までの距離、活動費用

Area 運動者の活動時間、利用施設までの距離、活動費用について、標準偏差を示した

週単位の利用は女子に多く、月単位、年単位の利用は男子に多い。したがって、施設開放の利用頻度は、女子の方が多いいえる。

居住地区との関係からみると、男子、女子ともに、年単位の利用をしている者、つまり、利用頻度の少ない者は、北部に多くみられる。

ものが表8である。

表8. Area 運動者の活動時間、利用施設までの距離、活動費用

項目	性別 X・S.D.	男 子				女 子			
		北 部	中 部	南 部	全 体	北 部	中 部	南 部	全 体
活動時間 (分)	\bar{X} S.D.	96.43 (47.46)	96.07 (45.67)	101.75 (51.66)	98.18 (48.16)	119.72 (51.00)	110.67 (45.05)	128.21 (44.16)	117.38 (46.17)
施設までの 距離 (km)	\bar{X} S.D.	5.29 (6.19)	2.47 (2.95)	3.07 (3.24)	3.55 (4.44)	7.25 (7.99)	2.87 (4.82)	5.09 (5.41)	4.25 (5.98)
活動費用 (円)	\bar{X} S.D.	622.72 (1165.12)	565.12 (699.19)	432.50 (1135.08)	508.06 (943.19)	410.80 (795.66)	295.13 (454.54)	125.90 (172.37)	267.08 (485.99)

活動時間は、平均男子が98.18分で、女子が117.38分であり、女子の方が男子よりも活動時間は長い。居住地区と活動時間との関係では、差はみられない。

利用施設までの距離についてみると、女子の方が男子よりも長い距離になっている。また、男子、女子ともに、利用施設までの距離は、北部が最も長く、次いで南部であり、中部が最も短い。つまり、運動施設に恵まれた地区ほど、施設の運動者に対する誘致距離は短い。

活動費用は、女子よりも男子の方が高額負担している。また、男子、女子ともに、北部のArea運動者が最も高額な費用を負担しており、次いで中部であり、南部が最も低額である。

したがって、利用施設までの距離、活動費用から、北部の運動者は、中部や南部の運動者に比べて、運動に対して不利に働く要因をより多くもっているものと考えられる。

(4) 運動のきっかけ

Area運動者がどのようなきっかけで施設開放を利用するようになったかをみたものが表9である。

表9. Area 運動者の運動のきっかけ

運動の きっかけ	性別 n・%	男 子				女 子			
		北 部	中 部	南 部	全 体	北 部	中 部	南 部	全 体
指導者が親切なので	n %	1 2.0	5 7.9		6 3.5	3 15.8	4 8.2	3 11.1	10 10.5
指導者にすすめられて	n %	2 3.9	17 27.0	3 5.2	22 12.8	4 21.1	2 4.1	1 3.7	7 7.4
指導者や運動の上手な人に 教えてもらえるので	n %	4 7.8	10 15.9	4 6.9	18 10.5	8 42.1	12 24.5	7 25.9	27 28.4
その場所で運動している人 を見て	n %	15 29.4	16 25.4	18 31.0	49 28.5	4 21.1	12 24.5	5 18.5	21 22.1
ポスターや広告を見て	n %	3 5.9	4 6.3	5 8.6	12 7.0	3 15.8		2 7.4	5 5.3
その施設開放の話を聞いて	n %	7 13.7	13 20.6	5 8.6	25 14.5	4 21.1	7 14.3	5 18.5	16 16.8
自分の希望する運動ができる ので	n %	19 37.3	31 49.2	28 48.2	78 45.3	12 63.2	26 53.1	20 74.1	58 61.6

地域における運動施設開放の整備・運営に関する基礎的研究

いつでも自分の望む時に運動ができるので	n %	12 23.5	13 20.6	11 18.9	36 20.9	7 36.8	11 22.4	7 25.9	25 26.3
使いたいものがいつでも使えるので	n %	3 5.9	5 7.9	2 3.4	10 5.8	1 5.3	1 2.0	15 55.6	17 17.9
費用が安いので	n %	6 11.8	13 20.6	8 13.8	27 15.7	5 26.3	10 20.4	1 3.7	16 16.8
ロッカー・シャワー・更衣室などが完備されているので	n %	1 2.0	6 9.5	1 1.7	8 4.7	1 5.3	3 6.1	3 11.1	7 7.4
そこで運動している人にすすめられて	n %	5 9.8	17 27.0	6 10.3	28 16.3	7 36.8	5 10.2	9 33.3	21 22.1
距離的に近いので	n %	13 25.5	3 4.8	15 25.9	31 18.0	7 36.8	16 32.7		23 24.2
余暇時間が増えたので	n %	3 5.9	2 3.2	1 1.7	6 3.5	2 10.5	3 6.1	5 18.5	10 10.5
特に、はっきりしない	n %	3 5.9	4 6.4	3 5.2	10 5.8		3 6.1		3 3.2
その他	n %	6 11.8	1 1.6	2 3.4	9 5.2		2 4.1		2 2.1

男子、女子ともに、「自分の希望する運動種目ができる」「希望する時間に運動ができる」「距離が近いところで運動ができる」といった条件が多くなっている。それに加えて特に女子では、「指導者や上手な人に教えてもらえるので」という者も多い。

つまり、Area 運動者の誘引条件は、ほぼ男女共通しており、女子では、特に指導者を求めている点特徴的である。

2) 非 Area 運動者の運動者行動

(1) 活動頻度、活動時間、利用施設までの距離、活動費用に対する希望

非 Area 運動者が希望する活動頻度、活動時間、利用施設までの距離、活動費用について、平均値と標準偏差を示したものが、表10である。

表 10. 非 Area 運動者の活動時間、利用施設までの距離、活動費用

項目	性別 地区 \bar{X} , S.D.	男 子				女 子			
		北 部	中 部	南 部	全 体	北 部	中 部	南 部	全 体
活動頻度 (回/1ヶ月)	\bar{X} S.D.	2.34 (1.68)	2.72 (2.26)	2.31 (2.67)	2.46 (2.28)	2.69 (1.45)	2.76 (2.57)	2.75 (1.79)	2.74 (2.14)
活動時間 (分)	\bar{X} S.D.	102.98 (51.81)	103.16 (48.57)	106.81 (56.53)	104.44 (52.45)	90.27 (38.01)	100.54 (51.86)	100.36 (46.54)	97.71 (47.36)
施設までの 距離 (km)	\bar{X} S.D.	11.28 (20.54)	11.85 (29.70)	13.52 (42.29)	12.30 (32.65)	6.20 (12.08)	5.10 (8.23)	8.79 (40.05)	6.26 (21.05)
活動費用 (円)	\bar{X} S.D.	1000.39 (874.36)	1057.42 (1803.49)	1089.97 (1275.85)	1032.98 (1363.80)	992.38 (1521.45)	873.95 (912.23)	731.80 (731.81)	817.32 (1096.96)

活動頻度は、男子、女子ともに、1ヶ月に2～3回であり、居住地区との関係では差はみられない。

活動時間は、平均男子が104分ほどであり、女子が98分程度である。女子よりも男子の方が長い活動時間を希望している。希望する活動時間と居住地区との関係では、差はみられない。

表 11. 非 Area 運動者の運動していない理由

理由	性別		男 子				女 子			
	n・%	地区	北 部	中 部	南 部	全 体	北 部	中 部	南 部	全 体
運動の場所はある、思うような運動ができないから	n		54	11	29	94	52	24	20	96
	%		44.3	8.3	19.7	23.4	43.0	10.8	18.9	21.4
お金がかかりすぎるから	n		33	8	8	49	41	19	7	67
	%		27.0	6.1	5.4	12.2	33.9	8.6	6.6	14.9
手続がめんどうだから	n		58	29	34	121	55	36	14	105
	%		47.5	21.8	23.1	30.1	45.5	16.2	13.2	23.4
施設や道具を自由に使えないから	n		51	23	24	98	43	27	12	82
	%		41.8	17.3	16.3	24.4	35.5	12.2	11.3	18.3
運動できる場所がない。または、あっても遠いから	n		42	11	31	84	23	42	21	85
	%		34.4	8.3	21.1	20.9	19.0	18.9	19.8	18.9
暇がないから	n		57	63	56	176	35	80	41	156
	%		46.7	47.4	38.1	43.8	28.9	36.0	38.7	34.7
運動すると疲れるから	n		26	3	4	33	24	8	5	37
	%		21.3	2.3	2.7	8.2	19.8	3.6	4.7	8.2
運動がきらいだから	n		23	1		24	31	6	5	42
	%		18.9	0.8		6.0	25.6	2.7	4.7	9.4
運動する仲間がないから	n		34	29	40	103	40	35	35	110
	%		27.9	21.8	27.2	25.6	33.1	15.8	33.0	24.5
他に趣味・けいこごとがあるから	n		28	13	20	61	31	19	9	59
	%		23.0	9.8	13.6	15.2	25.6	8.6	8.5	13.1
体調が悪いから	n		8	5	2	15	19	30	7	56
	%		2.5	3.8	1.4	3.7	15.7	13.5	6.6	12.5
仕事に影響する気がして	n		11	6	6	23	14	18	7	39
	%		9.0	4.5	4.1	5.7	11.6	8.1	6.6	8.7
家や家族の都合で	n		19	24	19	62	45	57	45	147
	%		15.6	18.0	12.9	15.4	37.2	25.7	42.5	32.7
運動クラブや行事に参加しているから	n		14	11	11	36	19	21	8	48
	%		11.5	8.3	7.5	9.0	15.7	9.5	7.5	10.7
運動してもつまらないと思うから	n		5	2	3	10	16	1	2	19
	%		4.1	1.5	2.0	2.5	13.2	0.5	1.9	4.2
ただなんとなく	n		3	24	19	46	7	32	17	56
	%		2.5	18.0	12.9	11.4	5.8	14.4	16.0	12.5
その他	n		6	4	5	15	2	11	6	19
	%		4.9	3.0	3.4	3.7	1.7	5.0	5.7	4.2

利用施設までの距離は、男子が平均12 km、女子が6 km ほどであり、女子が男子の約半分の距離になっている。また、女子では、南部で距離が長く、中部で短くなっている。男子については、居住地区との関係で差はみられない。

活動費用についてみると、男子よりも女子の方が低額を希望している傾向にある。居住地区との関係では、差はみられない。

(2) 運動をしていない理由

非 Area 運動者の運動をしていない理由についてみたものが表11である。

男子、女子ともに、「暇がない」「いっしょに運動する仲間がいない」などの理由が多いといえる。そのほかには、男子では、「手続きがめんどろ」「施設や道具を自由に使えない」などの利用上の問題をあげている者が多い。女子では、「家や家族の都合で運動できない」という者が多くみられる。

居住地区との関係から、運動をしていない理由についてみると、男子、女子ともに北部の者に多くの抵抗条件があり、運動から阻害されている要因が多いといえる。

5. 住民の Area Service に関するインフォメーション・サービスへの関心

1) 情報媒体

Area 運動者と非 Area 運動者が、今までに得に Area Service に関するインフォメーションの情報媒体と、今後得たいと考えている情報媒体についてみたものが、表12である。

表 12. 情報媒体

媒体	今までに得た 今後得たい n・% 性別	今までに得た情報媒体				今後得たい情報媒体			
		Area 運動者		非 Area 運動者		Area 運動者		非 Area 運動者	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
テレビ・ラジオ	n %	16 8.4	9 8.6	29 7.2	59 13.1	20 10.5	10 9.5	50 12.4	59 13.1
新聞	n %	33 17.3	10 9.5	65 16.2	80 17.8	49 25.7	13 12.4	105 26.1	83 18.5
市民だより	n %	86 49.0	62 59.0	234 58.2	317 70.6	97 50.8	42 40.0	209 52.0	244 54.3
ポスター	n %	18 9.4	8 7.6	45 11.2	56 12.5	40 20.9	15 14.3	78 19.4	82 18.3
回覧板	n %	48 25.1	16 15.2	16 21.6	123 27.4	51 26.7	23 22.0	136 33.8	151 33.6
看板	n %	16 8.4	3 2.9	22 5.5	18 4.0	22 11.5	8 7.6	39 7.7	28 6.2
掲示板	n %	18 9.4	6 5.7	26 6.5	29 6.5	27 14.1	9 8.6	49 12.2	45 10.0
パンフレット	n %	10 5.2	9 8.6	16 4.0	26 5.8	30 15.7	19 18.1	62 15.4	82 18.3
友人・知人・家族 (くちこみ)	n %	48 25.1	41 39.0	76 18.9	134 29.8	22 11.5	13 12.4	36 9.0	60 13.4
得たことがない 得たいとは思わない	n %	39 20.4	10 9.5	79 19.7	48 10.7	3 1.6	1 1.0	8 2.0	6 1.3
その他	n %	3 1.6	1 1.0	3 0.7	2 0.4	1 0.5			2 0.4

表 13. 情報内容

内容	今までに得た 今後得たい 運動者 n・% 性別	今までに得た情報内容				今後得たい情報内容			
		Area 運動者		非 Area 運動者		Area 運動者		非 Area 運動者	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
施設の場所	n %	95 49.7	55 52.4	174 43.3	141 31.4	79 41.4	39 37.1	207 51.5	231 51.4
施設への案内	n %	42 22.0	17 16.2	78 19.4	97 21.6	51 26.7	28 26.7	106 26.4	152 33.9
開放時間	n %	85 44.5	46 43.8	141 35.1	212 47.2	83 43.5	40 38.1	202 50.2	206 45.9
利用資格	n %	55 28.8	29 27.6	123 30.6	167 37.2	53 27.7	23 21.9	181 45.0	169 37.6
利用料金	n %	56 29.3	37 35.2	116 28.9	159 35.4	69 36.1	39 37.1	184 45.8	204 45.4
施設の種類や数	n %	41 21.5	23 21.9	76 18.9	85 18.9	51 26.7	28 26.7	145 36.1	138 30.7
付帯施設の有無	n %	17 8.9	8 7.6	23 5.7	35 7.8	34 17.8	23 21.9	86 21.4	93 20.7
利用手続き	n %	43 22.5	26 24.8	83 20.6	118 26.3	73 38.2	33 31.4	153 38.1	160 35.6
連絡先	n %	33 17.3	24 22.9	72 17.9	113 25.2	50 26.2	23 21.9	120 29.9	127 28.3
災害保償制度の便宣	n %	14 7.3	9 8.6	21 5.2	31 6.9	31 16.2	11 10.5	47 11.7	53 11.8
禁止事項	n %	14 7.3	5 4.8	21 5.2	16 3.6	23 12.0	7 6.7	40 10.0	46 10.2
利用方法	n %	47 24.6	25 23.8	64 15.9	88 19.6	73 38.2	29 27.6	124 30.8	176 39.2
利用効果	n %	13 6.8	8 7.6	12 3.0	11 2.4	16 8.4	10 9.5	29 7.2	52 11.6
利用者の声	n %	10 5.2	8 7.6	13 3.2	16 3.6	21 11.0	9 8.6	31 7.7	50 11.1
指導者の有無	n %	17 8.9	13 12.4	32 8.0	44 9.8	29 15.2	22 21.0	83 20.6	123 27.4
得たことがない 得たいとは思わない	n %	34 17.8	11 10.5	76 18.9	60 13.4	4 2.1	1 1.0	4 1.0	3 0.7
その他	n %	2 1.0		3 0.7	1 0.2	2 1.0			2 0.4

今までに得た情報媒体は、Area 運動者、非 Area 運動者ともに、市民日より、回覧板、友人、知人、家族からの口こみなどが多く、今後得たい情報媒体としては、市民日より、回覧板、パンフレッド、ポスターが多くなっている。

つまり、Area Service に関するインフォメーションは、フォーマルな媒体とインフォーマルな媒体の両方によって運動者へ伝わるといえるが、運動者の期待としては、フォーマルな媒体への依存度が高い。さらに、情報の媒体としては、定期性があり、また、ある程度の頻度で、しかも、より豊富な情報が確保されるものを求めていると考えられる。

2) 情報内容

Area 運動者、非 Area 運動者が今までに得た Area Service に関する情報内容と、今後得たいと考えている情報内容についてみたものが、表13である。

多くの情報内容について、今まで以上に運動者から必要とされているといえる。特に、付帯施設や指導者について、また、利用方法に関する内容は、Area 運動者、非 Area 運動者ともに対象として、今後、情報を提供していく必要がある。施設の場所、利用資格、利用料金については、Area 運動者よりも非 Area 運動者から多く求められている内容である。

したがって、インフォメーション・サービスを考える上で、Area 運動者、非 Area 運動者をその特性に応じて捉える必要がある。つまり、Area 運動者の運動生活の充実に寄与するためのものと、非 Area 運動者を Area 運動者へ転換させるためのものが必要であると思われる。

V. 結 論

以上のように、運動者の性別、居住地区との関係から、住民の運動者の特徴、運動者行動、インフォメーション・サービスについて考察してきたが、結果を要約すると次のとおりである。

1. Area 運動者の特徴

運動者の特徴としては、非 Area 運動者に比べ、就学時に積極的に運動を行っていた者が多い。年齢や運動欲求については、非 Area 運動者とあまり差はみられない。

利用している運動施設は、男子に屋外施設、女子に屋内施設が多い。また、施設までの距離や活動費用などからみて、北部の者に、運動に対して不利に働く要因が多い。

インフォメーション・サービスについては、情報媒体として、市民日より回覧板などのフォーマルなものを求めている。情報内容としては、付帯施設、利用方法、指導者に関する内容を今まで以上に求めている。

2. 非 Area 運動者の特徴

運動者の特徴としては、Area 運動者に比べ、就学時の運動経験が消極的である。

希望している活動費用や施設までの距離については、Area 運動者のその値より高い。

運動に対しての抵抗条件は、男女とも北部者により多くなっている。

インフォメーション・サービスについては、Area 運動者とあまり差はないが、情報内容として、施設の場所、利用資格、利用料金に関する内容を求めている者が多い。

以上のことから、今後、地域の Area Service における整備・運営の方策として、次のよ

うな点をあげることができる。

1. 運動者の特性を十分考慮して、その特性に応じた Area Service の手だてが必要である。
 - (1) Area 運動者の運動生活の充実に寄与するための方策が必要である。
 - (2) 非 Area 運動者の中で施設開放の利用欲求をもつ者に対して、その欲求を充足させるための方策が必要である。
2. 地理的にバランスのとれた運動施設の配置が必要である。運動施設の整備がたち遅れている地区については、次のような特殊な工夫が必要である。
 - (1) 現有施設の利用可能な時間を拡大すること
 - (2) 特殊的（従属的）運動施設を開放すること
 - (3) 関係的运动施設を開発すること
3. 開放されている運動施設の多くが、クラブや競技会のための従属的開放を中心に行っていることから、利用資格を団体利用に限定しているものが多い。今後は、個人的未組織的な利用をも対象とした主体的な開放施設へと拡大することが望まれる。

（昭和60年9月4日受理）

〔引用・参考文献〕

- 1) 武笠康雄 「体育の施設」 竹之下休蔵他 『体育社会学』 現代保健体育学大系3 大修館書店 1977 p328
- 2) 作野史朗 「運動者」 宇土正彦他 『体育管理学入門』 大修館書店 1976 p51
- 3) 織奥信男 「エリア・サービス」 宇土正彦他 『体育管理学入門』 大修館書店 1976 p23
- 4) 文部省 「望ましい社会体育施設」 文部省 『社会体育』 教育出版 1960 pp..176~178
- 5) 宇土正彦 「体育管理学」 現代保健体育学大系5 大修館書店 1975 pp..321~323
- 6) 宇土正彦 同上書 p310
- 7) 宇土正彦 同上書 p283
- 8) 宇土正彦 同上書 p255
- 9) 宇土正彦 同上書 pp..250~254
- 10) 梅沢宣雄 「体育管理の構造的把握」 宇土正彦他 『体育管理学入門』 大修館書店 1976 p12
- 11) 山下秋二 「関連的体育事業」 宇土正彦他 『体育管理学入門』 大修館書店 1976 p12
- 12) 品田龍吉 「クラブ・サービス」 宇土正彦他 『体育管理学入門』 大修館書店 1976 p30
- 13) 永田靖章 「プログラム・サービス」 宇土正彦他 『体育管理学入門』 大修館書店 1976 p37
- 14) 作野史朗 前掲書 p55
- 15) 作野史朗 同上書 p52
- 16) 宇土正彦 前掲書 pp..322~323
- 17) 宇土正彦 同上書 p359
- 18) 織奥信男 前掲書 p24